

# 高校サッカー大特集

あと1回、あと1歩、あと1秒。  
たぎる思いを切らすな、全力集中。  
待ってろ、全国。待ってろ、俺の未来。

—スタンダード新潟編集部

# 全力 蹴球

NIIGATA HIGH SCHOOL FOOTBALL



# 日本文理

## 「依存しない」サッカーで連覇

県大会連覇が懸かる今年、チームは「負」から「正」に向けてスタートを切った。そして今、「いい方向に進んでいる」と主将の山田拓実（3年）が目を見守る。文●井上和男（編集部）



中盤の要として常にボールに絡んでいく谷澤

撮影●井上和男（編集部）



山田のスピードは攻守において欠かせない

撮影●星野健一（Office ANDANTE）



切れ目のないプレーで攻守に貢献する町田

撮影●星野健一（Office ANDANTE）



ハードワークもいとわず山城が前線を駆け回る

撮影●井上和男（編集部）



タイトマークでエースキラーのセンターバック宮下

撮影●星野健一（Office ANDANTE）

### 強

いフィジカルを生かして前から圧力をかけて敵を封じ込めるのが、日本文理のスタイル。しかし、今年は「ザ文理」という王道は歩けない」と大橋彰コーチ。個性的なタレントがそろっていた昨年と比較して、技量や身体能力で特別に秀でた選手が少ない。昨年からトップで出ていた選手も少なく、経験値で劣る。そのため、例えば1対1の局面で負けた場合はどうする、ボールロストした場合はどうする、そういったネガティブな場面を想定したところからチーム作りが始まった。

絶対的エースがいらない分、全員で基本に忠実にプレーを心掛けた。強い統率力を持ったリーダーがいらない分、上下関係のない仲の良さを生かしてチームワークを磨いた。結果、「良くも悪くもいろんなものに依存しないチーム」（大橋コーチ）になった。誰かに、何かに頼りすぎず、選手一人一人

が自分の役割を全うするということだ。

日本文理の武器の1つがシュートカウンター。昨年のように最前線からガンガン相手にプレッシャーをかけてボールを奪い取ることはないが、ラインをコンパクトに保ちながら重心をニュートラルにして、相手が仕掛けてきたところをボール奪取にかかると、相手を引き込む攻め込まれてシュートを打たれるケースはある程度増えるが、体を投げ出してシュートブロックするなど、一人一人が求められた守備の原則を徹底する。U-18プリンスリーグ北信越1部では「シュート数でうちが上回っている試合はほとんどないと思う」（大橋コーチ）。その中で、総失点が17。全10チームの中で最も少なく、順位は2位をキープしている（第12節終了時点）。チームの生命線は粘り強い守備、そして素早いトラジション（攻守の切り替え）になる。

その反転速攻の起点となるのがアンカーやボランチを務めるMF谷澤功雅（3年）。「チームのために（ピッチの）横幅6メートルを一人で守るくらいの勢いでやります」と、中央で綱をかける。ボールを奪取した瞬間、右の山田拓実、左の石川里樹（共に3年）のサイドアタッカーがスピードに乗ってラインブレイクしていく。

また、最終ラインからのロングフィードも武器。対人に強い宮下創輝（3年）、1年からベンチ入りするカバリーリング能力に優れた赤阪和輝（2年）のセンターバック2人に加え、精度の高いロングキックが武器のGK松澤誠也（3年）らから、高さのあるFW上田然や山城勇稀（共に3年）、山田らへ一気に合わせる。中盤からはロングスプリントのできる熊田湮空（3年）や町田光希（2年）も絡んで行く。

6月10日のプリンスリーグ北信越1部第9節では日本文理の特長が冴えわたり、3-2で帝京長岡に逆転勝ちを収めた。

ツポにはまると得点を重ねる日本文理だが、零封されることもある。6月4日の県総体決勝、ボールを回しつづける帝京長岡の術中に陥り、0-0（PK3-4）で敗戦。5月の新潟地区大会準決勝でも東京学館新潟に0-0（PK4-5）で敗れている。

課題は特に、引いて守るチームを相手にしたときの戦い方。スピードのある山田をはじめとしたサイドアタッカー、中盤の選手が打開の鍵を握る。「自分がしっかりとプレーの面で活躍しないといけない」（山田）。

昨年、5年ぶり2度目の全国大会に出場を果たした。連覇を懸けた戦いが始まる。



提供／日本文理高校サッカー部

特別な選手はいないが、まとまりの良さは抜群。連覇の期待がかかる



撮影●星野健一(Office ANDANTE)

Tanizawa Koga  
**谷澤功雅**

日本文理 3年  
167cm・61kg 前登録チーム：アルビレックス新潟U-15

「球際では負けない。体力には自信がある」。ピッチの幅一杯に動き回る中盤の汗かき屋は、サイドバックを務めていたアルビレックス新潟U-15から、「選手権に出たいのと、上のレベルを目指すなら文理の勝てるサッカーを学ばないと」と、高校サッカーに道程を移した。メンバー登録外になった先輩たちの涙を見てきて誓うのは、「連覇を果たして恩を返すこと」。



撮影●井上和男(編集部)

Shimizu Taiju  
**清水太樹**

新潟西 3年  
165cm・60kg 前登録チーム：グランセナ新潟FC

チーム事情により中盤のバランスとしてボランチを任されているが、「本来はもっと前のポジションの選手」(藤田敬三監督)。細かなタッチのドリブルを駆使して攻め上がる清水の推進力は、直線的な攻撃の中でいいアクセントになる。「五分五分の試合はできている。あとは決めるだけ」。県総体準々決勝の日本文理戦でつかんだ自信を、最後の大会につづける。



Yamamura Sakuto  
**山村朔冬**

帝京長岡 3年  
170cm・60kg 前登録チーム：賢明学院中学校

卓越したスキルで攻撃をけん引する天才肌の司令塔。相手の嫌がるスペースでボールを引き出し、長短のパスを駆使して決定機を作り出す。利き足の右足を封じるだけでは、対峙(たいじ)する相手は抑えきれない。逆足のキック精度、威力もあり、ミドルシュートは確実にゴールの枠を捉える。今年のチームはセットプレーからもゴールを量産する。「9割がキッカーの質で決まる。いいボールを配球したいし、自信はある」。



撮影●井上和男(編集部)



Tomosaka Kaira  
**友坂海空**

新潟明訓 3年  
173cm・66kg 前登録チーム：アルビレックス新潟U-15

ボールを操るテクニック、シュートセンス、先の展開を予測する状況判断の確かさ。アタッカーに必要な能力がハイレベルでそろっている。今年はゴールに直結するプレーをより意識し、プリンスリーグ北信越2部で得点ランクトップの14ゴール(11試合消化時点)と数字を残している。坂本和也監督は「うちの絶対的なエース」と絶大な信頼を置く。守備でもポテンシャルを發揮。運動量、ユニホームの上から見ても筋肉の凹凸が分かる鍛え上げたフィジカルを武器に、相手に体をぶつけてルーズボールをものにして勢よく攻撃に転じる。昨年からの新潟明訓の背番号「10」を背負う。マークは年々厳しくなり、トーナメント戦(県総体・選手権)では過去2年で無得点に終わっている。集大成の今回は得点を量産する。「力まず、冷静にゴールネットを揺らす」。1年から攻撃をけん引してきたエースの本領発揮を見逃してはいけない。



撮影●井上和男(編集部)

1回戦 9月3日

長岡工業が  
後半に突き放す

長岡工業  
5

3 2  
|  
1 0

1  
燕中等



GKを中心に前半を2点に抑えた燕中等だったが



後半、長岡工業が3点を挙げる

1回戦 9月3日

1点差の攻防戦  
六日町が押し切る

六日町  
2

2 0  
|  
1 0

1  
村上



ボールを追って激しい攻防を見せた



球際の強さが勝負の明暗を分けた

1回戦 9月3日

村上桜ヶ丘、  
攻撃陣が爆発

村上桜ヶ丘  
12

8 4  
|  
0 0

0  
新発田商業



組織的なディフェンスで新発田商業を押さえ込む



後半も8点を追加して村上桜ヶ丘が大勝

1回戦 9月3日

安定した試合運びの長岡  
加茂の攻撃を零封

長岡  
6

3 3  
|  
0 0

0  
加茂



中盤ではダイナミックなプレーの応酬となった



長岡攻撃陣が躍動。6点を奪った



第102回

# 全国高校サッカー選手権大会 新潟県大会

1回戦 9月3日 2回戦 9月9・10日

今年の選手権県大会には58チーム(2校合同2チーム)が出場し、9月3日に開幕。  
ここまでに1・2回戦計26試合が終了した。次の3回戦は10月14日。  
決勝は11月12日デンカビッグスワンで行われる。

1回戦 9月3日

オープニングゲームは  
三条東が大勝

三条東  
7

4 3  
|  
0 0

0  
長岡商業



1 ラインブレイクから三条東がゴール前へ攻め入る。2 前半に3点を奪取。3 激しい競り合いを見せた両チーム。  
4 長岡商業も懸命に反撃を試みた。



4



3



2



撮影◎井上和男(編集部)

Profile

鈴木春樹(すずきはるき)◎1971年(昭和46)2月22日生まれ、長岡市出身。長岡大手高から順天堂大に進み、95年に羽茂高に赴任。柏崎高の監督だった2003年、春のセンバツに21世紀枠で初出場。08年は新潟県央工高の監督として夏の甲子園初出場。14年から20年3月まで長岡大手高を指導し、20年4月から八海高の教頭。22年4月に新潟県高野連専務理事に就任。



撮影◎星野健一(Office ANDANTE)

創部41年目で春夏通じて初の甲子園切符を勝ち取った東京学館新潟。どのチームも「殻を破って続いてほしい」と鈴木専務理事

Interview

# 鈴木春樹

[ 新潟県高校野球連盟・専務理事 ]

## 壁を打ち破り、空気が変わる瞬間を期待したい

10月の秋季北信越大会、続く11月の明治神宮大会で今季の高校野球シーズンは終了する。就任2年目の新潟県高校野球連盟・鈴木春樹専務理事に今季の新潟県の高校野球の振り返りと今後の取り組みについて聞いた。

文◎佐藤一朗(編集部)

必要なのは集団から抜け出す存在

——新チームが始動していますが、まず、東京学館新潟が初優勝した夏の新潟大会の感想をお聞かせください。

鈴木専務理事 東京学館新潟と中越の決勝(6-5で東京学館新潟のサヨナラ勝ち)に象徴されるように、クロスゲームが多かったですね。熱中症対策も各校しっかりとやってきたようでした。緊急搬送といった事例がなかったのは幸いです。

——その東京学館新潟は、新潟県では鈴木専務理事が監督だった2008年の新潟県央工以来の夏の甲子園初出場校です。

鈴木専務理事 そうですね(笑)。いいことだと思います、初出場の学校が出てきたことは。甲子園は素晴らしいところなので。私は監督の時から、たくさんの人にこの場を経験していただきたいと思っていました。県大会では、力はあるけど勝ち切れなかったチームが少なからずある。その中で東京学館新潟さんが力を発揮した。甲子園を見据えてやれば、殻を破れるチームは増えてくると思います。

——そうすると甲子園を経験した監督が増えることにもなります。

鈴木専務理事 スタンドにいてネットにさえぎられている視野と、グラウンド内に入って采配を振るうのでは、見え方が全然違います。仕切りがない世界を経験して生かしていただきたいです。

——ただ、甲子園では東京学館新潟は1回戦、市立和歌山(和歌山)に4-5で敗れました。県勢は2017年の日本文理を最後に初戦突破できない状態です。

鈴木専務理事 どのチームも甲子園に出る

だけで満足はしてほしくありません。勝たなきゃ、という気持ちで戦ってもらいたい。昨年から見えていて、試合の質は上がっていると。この秋の北信越大会では県勢が勝ち上がるのではないかと期待しています。どこかの高校がこの状況に風穴を開け、その後は「我々だって」というチーム、監督さんに続いてもらいたいです。マラソンでいうと集団から抜け出そうとする存在が。みんな頑張っているのは分かっています。どこかが甲子園で1つ勝つことで空気が変われると思います。日本文理は2009年に初戦突破し、一気に甲子園で準優勝。その翌年、新潟明訓がベスト8。あの流れ

——底力はある、と。

鈴木専務理事 はい。昨夏の甲子園、日本文理には全国的に注目された田中晴也投手(現千葉ロッテマリーンズ)がいました。試合は海星(長崎)に0-11で敗れましたが、田中投手の注目度と日本文理のプラン的な評価は変わらなかった。それを他校の監督さんたちにも誇ってほしい。オーナーシップというか。他県で練習試合をしても「新潟」を背負っていることを意識し、簡単に負けてもらいたくないんです。

——現役の監督の中に、甲子園で勝った経験のある方がいません。その影響はありますか？

鈴木専務理事 ありますね。勝った経験がないから、今はみんなが県の代表を狙うために横並びのベ이스メーカーになっている感じがする。だからこそ誰かが飛び出して勝つことで、「あそこができるのなら」というムードになってもらいたい。

——それはどのように？

鈴木専務理事 これまでは4月下旬開幕、その1週間前に組み合わせ抽選です。大会開始時期は南魚沼などの豪雪地帯を考えると大幅には変えられない。ただ、抽選日を早く設定すると選手、特に連合チームのモ

選手のモチベーションにつながる変革を

——今後、何か変えていくお考えは。

鈴木専務理事 来年から3球場で公式戦を行うことを考えています。北は五十公野、南支部は悠久山または佐藤池、北支部と南支部の合同の運営という形で三条パールの3つで、年間を通じてです。夏は準々決勝から今まで通りにエコスタで行います。これは加盟校の減少が影響しています。4球場を使用すると、運営の人員面で厳しいです。このほか、春季大会の抽選時期の変更は検討の必要があるかと思っています。

——それはどのように？

鈴木専務理事 これまでは4月下旬開幕、その1週間前に組み合わせ抽選です。大会開始時期は南魚沼などの豪雪地帯を考えると大幅には変えられない。ただ、抽選日を早く設定すると選手、特に連合チームのモチベーションにつながる変革を

## 北越工業 × AIRMANスケートパーク

# 新潟から世界へ羽ばたけ!

7月30日、スケートボードの本格的な滑走コースを備えた施設、新潟県立鳥屋野湯公園スケートパークがオープンした。

愛称は「AIRMANスケートパーク」。この施設のネーミングライツ・パートナーが北越工業株式会社だ。

撮影●嶋田健一(スタジオ嶋田) 文●井上和男(編集部)



ネーミングライツ契約により運営費の一部を捻出。高校生以下の入場料200円(大人600円)が実現した

「大人になった時に『昔AIRMANで遊んだね』って懐かしんでくれれば」と佐藤本部長



### スケーターへの偏見をなくす

「商用で市内を車で走っていると、たまに歩道でスケートボードをやっている子たちを見かけます。『ああ、やる場所がないのかなあ』と思っていました」。当時を振り返った同社管理本部の佐藤豪一取締役本部長。そんな風に感じていた矢先、県からネーミングライツの話が持ち込まれた。

「AIRMANとの親和性が面白いと思いました。また、これから始めたい、平野歩夢選手を目指したいと思う子どもたちがやれるように、初級者、中級者向けの設計を考えていると言われて、なおさらいいなと思いました」(佐藤本部長)

すぐに社内で検討に入り、応募を決めた。ところが応募したのは北越工業の他に1社だけと聞き、佐藤本部長は驚いたという。新潟市内や近郊には本格的にスケートボードをする施設がなく、公園や路上で滑走するケースが目立ち、市に多くの苦情が寄せられていた。「そんなスポーツにお金を出すことは会社のイメージダウンになる」。そうネガティブに考えても不思議ではない。しかし北越工業は違った。

「寄せられる苦情に対し、スケートボードに場所を用意してあげたいという県の思いにも共感しました。スケーターは外見で判断されがちですが、とても礼儀正しい人たち。スケートボードは世界ではものすごく認められているスポーツです。新潟県でスノーボードだけでなくスケートボードももっと認知されるようになれば、日本の中で『新潟すごいぞ』ってなるのではないのでしょうか」

一部のマナーの悪い者たちのせいです

スケートボーダーが色眼鏡で見られている。そんな偏見をなくしたいと思ったことも、北越工業が手を挙げた理由の1つだった。年額1300万円×5年間のネーミングライツ契約が5月に発表された。最初に構想を聞いてから半年も経っていなかった。

### 五輪選手誕生も遠くない

新潟県内には本格的なスケートパークが3つある。上級者向けの屋内型の村上市スケートパーク、屋外型の南魚沼市スケートパーク、そして初・中級者向けの屋内と屋外の施設を併せ持つ「AIRMANスケートパーク」。異なる3つのパークがそろったことで、新潟県のスケートボード界には大きな期待が寄せられている。

平野歩夢選手の父でありAIRMANスケートパークの設計の際に県から意見を求められた、一般社団法人日本スケートボード連盟の平野英功副代表理事は、利用者自身のレベルに合わせて滑ることができるのは、選手を育成する上で非常に良いと話す。

「低年齢化しているスポーツなので、短い競技歴でオリンピックに出たりメダルを取ったりできる、とても夢のあるスポーツです。ロサンゼルス(2028年五輪)を目指すというような、夢のあるステップをみんまで刻んでいければいいと考えています」

花角英世新潟県知事も「多くの人に利用してもらい、このパークからトップアスリートが育ってくれればうれしい」と期待する。先んじて4年前にスケートパークを造った村上市は、そこで育った中学生の菅原姉妹(芽依・琉衣)が昨年、日本選手権

### 会社の認知度向上と地域貢献

新潟県議会でスケートパークの建設構想が持ち上がったのは、昨年2月のことだった。県は、パーク利用者に若い年齢層が想定されることから利用料金をできるだけ安くにしたいと考え、パークの運営費に施設のネーミングライツ(命名権)で得る契約金を充てようと、パートナー企業の公募を決めた。県内に本社を置く企業や県にゆかりのある県外企業などリストアップした約40社の中から、さらに約20社に絞って昨年暮れから今年1月にかけて直接訪問。その結果、3月の公募締め切りまでに2社が応募した。

選定委員会ではネーミングライツ料、契約期間、地域貢献への取り組み、施設愛称など複数の項目について検討。北越工業が提案した施設愛称「AIRMAN」(エアマン)は同社のブランド名だった。スケートボードには空中で決める技を指すエアトリックなど、競技にはエアの付く呼称がある。競技とマッチした愛称は親和性があるとして高く評価されたようだ。

北越工業は圧縮空気を作り出すコンプレッサ、発電機、高所作業車などを製造販売する、燕市に本社と工場を置く全国的なメーカーだ。特にエンジンコンプレッサの国内販売では9割近くのシェアを誇るが、企業相手の会社ゆえ、一般にはほとんど馴染みがない。

同社がネーミングライツ・パートナーに関心を寄せた理由は、多くの企業と同様に自社の認知度アップが目的。しかしそれだけではなかった。地域に対して何かできないかという思いがあった。

の表彰台にそろうて上がったことで注目を集めた。

「新潟のスケートボーダーが世界へ行ってくれる。こういった環境ができたことで、僕もそれが楽しみになりました」。7月30日のオープニングイベントに登場した平野歩夢選手がうれしそうに話した。世界を知るトップアスリートが語るからこそ、期待は現実味を増す。

同社のブランド「AIRMAN」。「MAN」は男性ではなく「人」を指すという。「世界へ羽ばたく人になるように」。そんな意味が込められているそうだ。

「この施設を使ってオリンピック選手が出ていただきたい。そのお手伝いができることをうれしく思います」(堀内義正・北越工業代表取締役社長)

# AIRMAN スケートパーク



平野兄弟(右・歩夢、左・海祝)もオープニングに駆け付けて滑走。「こういう所でアスリートが育っていったら、スケートボードもスノーボードも盛り上がりそう」(海祝選手)

#### 【北越工業株式会社 企業概要】



創立/1938年  
本社所在地/新潟県燕市下粟生津3074  
主な事業/エンジンコンプレッサ、モータコンプレッサ、エンジン発電機、高所作業車、ミニバックホー、エンジン溶接機の製造・販売  
資本金/34億1,654万円  
総売上高/490億円(2023年3月期連結)  
※同社ホームページより抜粋